

東日本大震災直後の宮城県の妊娠女性の精神的なストレス

Watanabe et al. Psychological distress during pregnancy in Miyagi after the Great East Japan Earthquake: The Japan Environment and Children's Study. J Affect Disord. 2016;190:341-348. doi:[10.1016/j.jad.2015.10.024](https://doi.org/10.1016/j.jad.2015.10.024).



【はじめに】

自然災害は、うつ病や不安障害の増加など、妊娠期の女性の精神疾患と関連することが示されています。そこには自然災害による精神的ストレスが影響している可能性があります。そこで本研究では、東日本大震災直後の妊婦の精神状態を、被害の大きかった宮城地域と他の地域とで比較する調査を行いました。

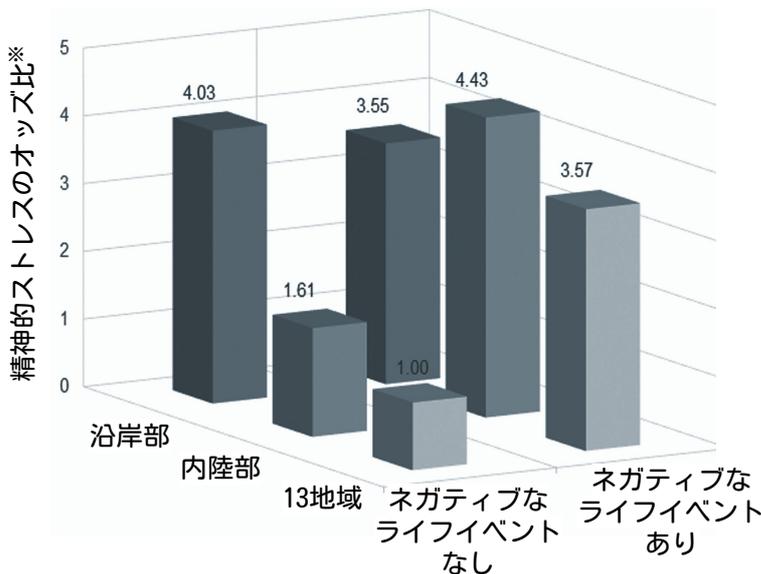
【調査項目】

全国15地域のエコチル調査センターで調査に参加し、2011年6月から2011年12月の間に出産した7,473名の妊婦を対象としました。参加者を甚大な被害のあった宮城と福島を除く13地域（6,447名）、宮城県内陸部（670名）、宮城県沿岸部（328名）のグループに分け、精神的ストレス尺度、家族構成、生活習慣およびネガティブなライフイベントなどの質問に対する回答データを、統計学的手法で解析しました。

【結果】

| 精神的ストレスあり | |
|-----------|------|
| 13地域 | 3.1% |
| 宮城地域 | 4.9% |
| 宮城内陸部 | 4.6% |
| 宮城沿岸部 | 5.5% |

精神的ストレス尺度について解析したところ、精神的ストレスのある妊婦の割合は、13地域に比べて宮城県で多い結果となりました。



宮城県内陸部や宮城県以外の地域では、ストレス源となりうるネガティブなライフイベントの経験がある場合に精神的ストレスは増えていました。一方、宮城県沿岸部では、ネガティブなライフイベントの経験にかかわらず、精神的ストレスのある妊婦が多いという結果が得られました。

※オッズ比：ある事象の起こりやすさを2つの群で比べたもので、数字が大きいほど起こりやすいことを示します。この場合、事象は「精神的ストレス」を指します。

【この調査でわかったこと】

東日本大震災で甚大な被害を被った宮城では、妊婦の精神的ストレスが高まっていることがわかりました。特に被害が深刻であった沿岸部では、ネガティブなライフイベントを経験していなくても、精神的ストレスが高まる傾向がありました。したがって、自然災害で特に被害が深刻な地域では、妊婦に対する心理的サポート体制が不可欠であると考えられます。